

令和7年度版

# 小学校における 租税教育実践レポート



山形県租税教育推進協議会

# はじめに



「山形県租税教育推進協議会」は、租税教育をきわめて重要なものにとらえ、昭和 55 年 2 月、他県に先駆けて東北で最初に設立されました。これまで長きにわたり、数々の事業を着実に実施させていただいておりますことは、関係機関の皆様方のお力添えの賜であり、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 23 年 11 月に、文部科学省・総務省・国税庁の協議により発足した「租税教育推進関係省庁等協議会（中央租推協）」においては、租税教育の充実に向けた基本方針等について、毎年、継続的に協議を重ねており、「小・中・高等学校における租税教育は、教育の現場、税の専門家及び各地域の税に関する民間団体等が連携・協働して、社会全体で取り組むべきもの」として合意・確認されているところです。

当協議会におきましても、従来から積極的に租税教育を推し進めてまいりました。

租税教育は、次代を担う子供たちが、財政や租税の意義・役割を正しく理解することで、社会の仕組みを知り、感謝の気持ちを育み、いずれは税を通して社会に貢献する意識を持った大人となる契機として必要なものであると認識しております。さらに、選挙権年齢の引下げに伴い、主権者教育の重要性も高まっております。財政の状況や現代社会の諸課題を知り、税金の使われ方について関心を高め、選挙を通して自分の意思を反映させるということは、主権者教育としてとても大切なことであると思っております。

また、当協議会の他県に誇れる特色ある事業として、昭和 58 年から実施しております「租税教育推進協力者の委嘱」があります。これは、各教育事務所から推薦をいただいた小・中学校の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税に関する授業の実践研究を行っていただき、その指導内容を「租税教育実践レポート」としてまとめていただくものです。これまで延べ 581 名の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税教育の実践研究に携わっていただきました。このことは、本県の教育機関にとって貴重な財産であり、租税教育の充実に大きく寄与しているものと確信しております。

本書は、令和 7 年度の協力者である 5 名の小学校の先生方が作成しました「租税教育実践レポート」を集約したものです。生徒が税について主体的・対話的に学んだ授業実践が報告されており、租税教育の参考となる全国でも数少ない貴重な資料となりますので、是非活用していただきたいと思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中、実践研究と執筆をお引き受けいただきました先生方に、心より感謝を申し上げ、巻頭の挨拶といたします。

令和 8 年 3 月

山形県租税教育推進協議会代表幹事

山形県教育委員会教育長

須貝 英彦

# 目次

(順不同・敬称略)

・山形市立山寺小学校	教諭	田中清彦	・・・・・・・・・・	1
・河北町立西里小学校	教諭	牧野亜希子	・・・・・・・・・・	2
・真室川町立真室川北部小学校	教諭	須藤郁子	・・・・・・・・・・	3
・高畠町立屋代小学校	教諭	山田瑞基	・・・・・・・・・・	4
・鶴岡市立朝暘第五小学校	教諭	田澤あきな	・・・・・・・・・・	5

※ これまでの実践レポートを含め、仙台国税局ホームページに掲載されております。

# わたしたちのくらしと税金～あなたは減税に賛成ですか？～








山形市立山寺小学校教諭 6学年 田中 清彦

実施年月日：令和7年 5月27日 6名

## 1 実践計画・指導のねらい

「わたしたちのくらしと日本国憲法」の単元から、日本国憲法について学習し、三つの原則がわたしたちの暮らしにどのように生かされているのかを理解することができるように考えた。そして、権利と義務について調べることで「税」につなげていきたい。税金がどこで集められ、何に使われているのかについて学習することを通して、税金の必要性について考えることができるようにした。さらに、今メディアでも取り上げられている「消費税減税」について、家の人にインタビューしたり、話し合いをしたりすることで自分の考えを深められるようにしていきたい。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・日本国憲法について考え、三つの原則についてまとめる。	○ <u>日本国憲法って何だろう</u> ●戦争の後にできたらしい。 ●三つの原則について調べてみたい。 ●ぼくたちに関係あるのかな。 □社会科資料集（文溪堂）
2	・三つの原則について考え、権利と義務について調べる。	○ <u>みんなの生活とはどんなつながりがあるのだろう</u> ●家の人が選挙に行っていたと思う。 ●いろいろな権利と義務があるんだ。 ●大きな地震があったとき自衛隊の人が活動していたよ。 □社会科資料集（文溪堂）
3	・税金について関心を持ち、税の種類や使われ方を調べ考える。	○ <u>税金って何だろう</u> ●消費税は知ってるよ。 ●教科書の裏にも「税金」って書いてあるよ。 □副教材「わたしたちのくらしと税金」 □DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
4	・租税教室を通して「税金の使われ方」等について学び、税金の使い道について自分の考えをもち理解を深める。 	○ <u>税金は何に使われているのだろうか</u> ●いろいろなところに税金が使われているんだ。 ●まず自分たちの町に必要なのは学校だよな。 ●隣の町にお願いできるものもあるよな。   
5	・消費税の減税について話し合い、税金について考える。 	○ <u>減税は本当に必要なのだろうか</u> ●お母さんは「消費税がなくなれば安く買い物ができるからいいね」と言っていたよ。 ●消費税がなくなったら、減った税金はどうするのかな。 ●やっぱり消費税はこのままでいいんじゃないかな。
6	・税金について学習したことを生かして税に関する絵はがきを書く。 	○ <u>税に関する絵はがきを書こう</u> ●税金の必要性を伝えるためにどんなイラストにしようかな。 ●言葉も大切だよな。 

### 【指導のポイント】<1時間目>

グループで「三つの原則」の1つを担当し、調べたことをPowerPointにまとめた。友達と相談しながら調べまとめることでいろいろな気づきをもつことができた。

### 【指導のポイント】<2時間目>

自分たちの生活とのつながりを一番感じやすい権利と義務について調べて、考えることで「税」につなげることができた。

### 【指導のポイント】<3時間目>

税金が自分たちの生活とつながりがあることに気づくことで、その必要性を考えさせることができた。

### 【指導のポイント】<4時間目>

自分が町の代表者として、限られた税金をどのように有効的に活用するのかを考えることで、人々の思いや願いに気づくことができた。

### 【指導のポイント】<5時間目>

お家の人にインタビューすることで、消費税に対して、もう一度考え直すきっかけになり、話し合いを通してさらに自分の考えを深めることができた。

### 【指導のポイント】<6時間目>

これまでの作品も鑑賞することで、自分が描きたいもののイメージを思い浮かべやすくなり、創作意欲につながった。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ DVD「マリンとヤマト不思議な日曜日」を租税教室の前に鑑賞しておくことで、税金について自分なりの考えをもって租税教室での話を聞くことができ、税金についてより理解することができた。さらに、自分なりの税金の使い方を考える時間も確保することができ、税金の使われ方も考えることができた。
- ◎ 日本国憲法について自分たちで調べていく中で、「税金」が自分たちのくらしと深く関わっていることに気づき、興味をもちながら学習を進めることができた。
- ◆ 自分なりの税金の使い方を考えたあと、もっと話し合いの時間を確保できればよかった。どんなテーマをもって考えたのか、なぜこのように考えたのか等を交流することで、自分の考えを深められたのではないかと考える。

## わたしたちの暮らしと税金との関わりを考える

河北町立西里小学校教諭 6学年 牧野 亜希子  
実施年月日：7年4月17日～12月15日 16名

### 1 実践計画・指導のねらい

「税金と聞いて何を思い出す？」と聞くと、子ども達の多くは、「消費税」と即座に答える。「食品は8%で、それ以外は10%。」と税率も詳しい。それほど、消費税は子ども達の生活の中に根付いている。しかし、他に知っている税はないかとたずねると即答はできない様子だった。税金が自分たちの暮らしと関わっていることは理解しているが、どのように自分たちの暮らしに返ってきているか、どのように使われているのかについては、ほとんど考えが及んでいないと思われる。そこで、社会科の単元『私たちの生活と政治』の中での、「納税の義務」とも関連付けながら、税金の必要性や重要性について考えていきたい。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・ 日本国憲法	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本国憲法にはどんな考え方があり、暮らしとどんなつながりがあるのだろうか</span> ● 3つの原則があり、その中の基本的人権の尊重が私たちの暮らしと深くつながっていることが分かった。 □ 教科書「新しい社会」(東京書籍) □ 社会科資料集(正進社) □ 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
2	・ 基本的人権の尊重の中の、納税の義務に関わって、税金の種類について調べる。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">わたしたちは、どんな税金を納めているかを調べよう。</span> ○ 納税の義務は、憲法の三原則の内のどれに入るでしょう。 ● 基本的人権の尊重の「権利と義務」に関わっている。 ● 税の種類が多すぎて、大人になって納められるのかな。 ● 聞いたことのない税金もあって、こんなにたくさんの税金、ない方がいい。 ● 身の回りに、こんなにたくさんの税があるなんてびっくり。 ● 税金は日本だけじゃないことが分かった。 □ 教科書「新しい社会」(東京書籍) □ 社会科資料集(正進社) □ 児童用タブレット(調べ学習) □ 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
3	・ 山形税務署「租税教室」を通して、税金の使われ方や税金の仕組み、税金の種類などについて学び、税についての理解を深める。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">税ってなんだろう？何に使われているのでしょうか。</span> ● 税金の種類が50種類もあって、おどろいた。 ● ポテトチップス税とか犬税とか 本当にあったと知って、おもしろい。 ● 火事が起きてもお金がないと消防車が呼べないと知って、生活にとって税金は絶対に必要だと思った。 ● 学校を建てるのに10億円もかかることや西里小の6年生が1年間学校で勉強するのに、8千万円以上かかっていることにびっくりした。 ● 1億円って重い。束にすると大きい。 □ 税のビデオ(マリンとヤマト又はアナザーワールド)
4	・ 税についての学習をふり返り、分かったことや考えたことを交流しまとめる。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">身近な暮らしとかかわる税金についての学習をふり返ろう</span> ● 修学旅行の費用の中に、日本独特の入湯税もあったんだと知った。 ● 委員会で使った模造紙やマジックも税金が関わっていると気づいた。 ● 税金は、社会で暮らすために支払う「会費」のようなものだ分かった。 ● 暮らしの安心と安全のためには、税金が必要だと分かった。 □ まんが「おじいさんの赤いつぼ」(大蔵税務協会発行)

#### 【指導のポイント】<1時間目>

社会科単元『私たちの生活と政治』の学習を通して、憲法の3原則と暮らしとの関わりについて、義務としての「税」を丁寧に扱うようにする。

#### 【指導のポイント】<2時間目>

「納税の義務」について、日本国憲法の3つの原則とのつながりを想起させる。どんな税金を納めているのかを調べさせることで、わたしたちの暮らしの中の至る所に「税金」が関わっていることに気づかせ、次時の「租税教室」につなげていく。

#### 【指導のポイント】<3時間目>

山形税務署の講師による専門的な話を聞くことで、税についての理解を深めることができた。税金がわたしたちの暮らしになくってはならないものだということを知り、日常の様々な場面や物について、税との関わりを考えさせる。

#### 【指導のポイント】<4時間目>

修学旅行や学校生活など、身近な生活体験を想起させ、学んだ「税」と結び付けてふり返らせる。税に対する考えをまとめさせる。

### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 日本国憲法の基本的人権の尊重、納税の義務と関連付けることで、税金が自分たちの暮らしと強く結びついていることを理解するのに役立った。
- ◎ 事前にいただいた副教材の「私たちの暮らしと税金」は税を理解するのに、入り口がクイズで興味を引き、内容がコンパクトで使いやすかった。
- ◎ 将来、河北町の小学校が統合することを知っている児童にとって、学校建設や教育費に莫大なお金がかかるという事実は、自分たちにとって身近で驚きの内容だった。税金の使われ方を理解したり、その必要性を実感したりするのにとても有効な情報だった。
- ◆ 租税教室を中心に単元を構成したが、児童の考えから生まれた対立意見を使ったディベートや学んだ内容を活用して税のはがきコンクールへの参加などの発展的な活動を組んで、より自分ごととなる取り組みができるとよかった。

# わたしたちの生活と税金


真室川町立真室川北部小学校教諭 6学年 須藤 郁子

実施年月日：7年4月22日～6月18日 9名

## 1 実践計画・指導のねらい

社会科の「わたしたちの生活と政治」の単元との関わりの中で、「税金」について学び、「租税教室」を通して、「税金」についての理解や「税金」の必要性について理解させていきたいと考え、指導を計画した。まず、日本国憲法とその3原則を理解し、権利もあるが、義務もあることを知り、なぜ、その義務が必要なのか実感を持って学んでいけるといいと考えた。そこで、動画など視覚的資料を活用しながら理解を深めていけるよう、また、話し合いを通して自分事として捉え、税について身近なものであり、必要なものという理解につなげていきたいと考えた。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1 ・ 2	・日本国憲法には、3つの原則があり、国民の権利を保障するとともに義務も定められていることを知る。	○ <u>日本国憲法にはどのような考え方があろうか。</u> ● 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの原則がある。 ● さまざまな国民の権利が保障されている。 ● 国民が果たさなければならない義務（教育を受けさせる義務、仕事について働く義務、税金を納める義務）も定められている。 ○ <u>税金というと、どんなことを思い浮かべますか。</u> ● 消費税、住民税、固定資産税、・・・ ● 払いたくない。ない方がいい。 □使用教材名 教科書「わたしたちのくらしと日本国憲法」
3	・国の政治の仕組みと選挙について学ぶ中で、どんな税金の使い方がよいか考えることを通して税金についての理解を深める。	○ いよいよ明日は、国会議員選挙の投票日です。候補者がそれぞれ、最後の演説をしています。あなたなら、どの候補者に投票しますか。 ● 私は、高校と大学の授業料を無料にすると主張しているB候補に投票します。私たちに直接関わることだし、無料だと親が助かると思うからです。 ● 私は、C候補に投票します。C候補は、保育園の数を増やすなどして、子育てしやすい環境にしていけることを大切にしているからです。自分も将来、親になった時に、子どもを安心して育てられたらいいと思うからです。 □使用教材名 教科書「国の政治の仕組みと選挙」
4	・子育て支援の願いを実現する政治について学ぶ中で、税金の集め方や使い道について理解する。	○ 子ども家庭総合センターの様子と、子どもをもつ親の願いについて話し合おう。 ● 施設の建設には、57億円もかかったそうです。施設に必要な物を買ったり、働く人の給料を払ったり、運営にもお金がかかることが分かりました。 ● 税金を使って、多くの人が必要とする公共的な事業を行っている。税金があるから、道路や学校の建設もできるし、ごみの処理もできる。 ● 税金が何に使われているかを知ることは大切だと思いました。 □使用教材名 教科書「子育て支援の願いを実現する政治」
5	・租税教室を通して、「税金」の必要性や使われ方について考え、理解を深める。	○ 税金には、どんな種類があり、どのようなことに使われているのだろう。 ● 税金は、私たちの生活に欠かせないものだと分かった。 □使用教材名 税のDVD「マリンとヤマトの不思議な日曜日」 

### 【指導のポイント】<1・2時間目>

教科書や資料集、デジタル教科書で学ぶと共に、NHK for schoolの「社会にドキリの「日本国憲法」や「権利と義務」などを視聴したことで、より理解が深まった。

### 【指導のポイント】<3時間目>

どの候補者に投票するか理由を含めて話し合う中で、どのように税金を使ってほしいか、どのように税金を使うことが望ましいかについて、自分事として考えることができたと共に、自分以外のいろいろな立場の人のことも考えながら広い視野で考え、税金の必要性を感じることができた。

### 【指導のポイント】<4時間目>

租税教室を通して、税金の必要性や使い道などについて、分かりやすく説明していただき、さらに理解を深めることができた。自分たちの生活と税金が深く関わっていて、私たちの生活に欠かせないものだということがよく理解できた。



## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

◎ 模擬選挙的な活動を設定し、自分はどの候補に投票したいかとその理由を話し合う中で、有効に税金を使うことや自分や自分以外のいろいろな立場の人の願いを考えながら、「税金」の必要性や使い方について、自分事として理解を深めることができた。

◎ 租税教室で「もしも税金がなかったら」というアニメを見せていただき、火事の時に消防車が来て火を消してもらったら莫大なお金を払わなければならなくなった例などを具体的に分かりやすく知り、当たり前のように暮らしている中で、税金によって生活が守られていることを子ども達が理解し、その必要性について考えることができた。

◆ 例えば、自分が国会議員だったら、どんなことに「税金」を使うか、どの分野に重点を置きたいかなど、いろいろと具体的に想定した場面設定の中で、考え、話し合う機会をさらに持つことができると、ますます「税金」へ興味を持つことができ、自分事として考え理解を深められる機会にもなったと思う。

## 親子で税を考える

高島町立墨代小学校教諭 6学年 山田 瑞基


実施年月日：令和7年4月、6月 19名

### 1 実践計画・指導のねらい

本校で使用している東京書籍 新編「新しい社会：政治・国際編」では、「単元名：わたしたちの生活と政治」において、日本国憲法の考えや日本の政治について捉える過程の中で、どのような税金があり、どのように使い道が決められていくのか学習する構成となっている。

そこで、授業参観において、模擬投票の取り組みを設定し、候補者を選ぶ際にそれぞれの候補者がどのような税金の使い道を考えているのか、親子で考えることができるようにした。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)
1	・日本国憲法の考えは、私たちの生活とどのように密接に関わっているのかを知る。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本国憲法の考えは、市町村や国の取り組みにどのように反映されているのか調べよう。</span> ● 税金を使って、教科書が無償で配られている。目の不自由な人のための表示や点字ブロックが整備されている。 □使用教材名 教科書 東京書籍「新編 新しい社会 6 政治国際編」 社会科資料集
2	・模擬投票を通して、選挙の際、どのような観点から投票する候補者を選んでいけばよいのか考える。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">候補者が税金の使い道についてどのような公約を立てているのか考え、候補者を選ぼう。</span> ● みんなから集めた税金がどのように使われていくのか、しっかりと考えていくことが大切だと思った。 ● 選挙にしっかりと参加して、どの候補者に投票していくか考えることが大切だと思った。 □使用教材名 教科書 東京書籍「新編 新しい社会 6 政治国際編」 社会科資料集 模擬投票グッズ 
3	・【租税教室】 税務署の方の話を聞きながら、適切な税金の使い道について考える。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">税金について、何にどれくらい使うべきか考えよう。</span> ● 住民の声に応じて、税金の使い道を考えていくことが大切だとわかった。 □使用教材名 税務署講師の方によるデジタル教材、DVD 1億円レプリカ
4	・税金について学習したことを振り返り、絵葉書を書く。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習したことを振り返り、絵葉書を書こう。</span> ● 税金の大切さを、分かりやすく絵にまとめた。 ● 深く自分たちの生活にかかわりがあることを伝える言葉を入れたい。

#### 【指導のポイント】<1時間目>

日本国憲法はどのようなものであるのかをまず学び、そうした考えが生活にどのように反映されているか捉えられるように、なるべく身近な例を取り上げた。

#### 【指導のポイント】<2時間目>

実際に投票に使用されている道具を高島町選挙管理委員会よりお借りした。また、授業参観でこの活動を設定し、保護者とともに、投票することで、税金の使い道や選挙について理解を深められるようにした。

#### 【指導のポイント】<3時間目>

事前に税務署の講師の方と打ち合わせを行った。デジタル教材を用いて、班ごとに考えを共有しながら、活動を行うことで、理解がより深まったようだった。



### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

◎ 実際に使用されているものを活用した模擬投票、さらには租税教室での税金の使い道について話し合う活動を通して、税金の大切さについて、実感を持って学習することができた。また、授業参観の機会を活用し、保護者も巻き込んだ活動を行ったことで、より税金に対する理解が深まったと感じた。

◆ 教科書で調べたことを基に、実際に自分たちが住む地区や町では、どのように使われているのか調べさせるとなおよかった。時間と環境が整うのであれば、学校の外に出て税金が使われているものを調べたり施設を訪れたりできるとよかったと思う。

# くらしと税金のかかり方について考えよう





静岡市立朝陽第五小学校教諭 6学年 田澤 あきな

実施年月日：令和7年6月3日～6月20日 24名

## 1 実践計画・指導のねらい

学習の始めに、子ども達に税についてのイメージを聞くと、「税はいらないもの」「税金は高い」といったマイナスなイメージを多くもっていた。そのため、税は私達の生活を支える大切な仕組みであるということを学ぶ機会を設け、学習を通して身近な公共サービスが税によって支えられているということに気づかせることをねらいとして、学習を行った。「わたしたちの生活と政治」の単元の中で、「税金が自分たちの生活とどのように結びついているのか」、「集められた税金をもとに誰がどのようなことをしているのか」を関わらせた学習を計画し、税金の必要性や重要性について考えられるようにしていく。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1 ・ 2	・税金とは何か、どんなことに使われているのかを調べる。	○ <u>税金は、私たちの生活とどのようにかかっているのだろう。</u> ● この校舎や教科書にも税金が使われている。 ● 教育費として自分達のためにたくさんの税金が使われている。 □ 教科書「新しい社会」(東京書籍) □ 副教材「わたしたちのくらしと税金」
3	・税金のない世界について考え、生活を支える税金について理解を深める。 	○ <u>税金がなかったら、今の生活がどのように変わるのか考えよう。</u> ● みんなが利用できる施設が少なくなる。 ● 治療費が高くなり、救えなくなってしまう人が増える。 ● 健康で豊かな暮らしができなくなる。 □ 副教材「わたしたちのくらしと税金」 □ 動画「マリンとヤマト 不思議な日曜日」
4	・「租税教室」を通して、税とは何か、何に使われているのかを考える。 ・新しい町の代表者になったつもりで、税金の使い道を考える。 (出前教室) 	○ <u>税金の種類を知り、使い道を考えてみよう。</u> ● 一日の生活の中で、様々な種類の税を払っている。 ● 税金の使い道を考えるとき、何を優先して使えばいいだろう。 □ 一億円のレプリカ
5	・市民の願いを実現させる政治の働きを知る。 ・行政相談委員に相談する。 (出前教室) 	○ <u>生活の中で困っていることを行政相談委員に相談しよう。</u> ● 登下校の際に通る橋の下に落書きがあり、消してほしい。 ● 家の隣にある公園の木の葉がたくさん落ちてきて、掃除が大変。 □ パンフレット(全国行政相談委員連合協議会 発行)
6	・これまで学んだことを生かして税の絵葉書を描き、まとめる。 	○ <u>これまで税について学んできたことを生かして、絵葉書を作ろう。</u> ● 税金は無くしてはならないものだから、その大切さがわかるように作りたい。 ● 身近に使われている税金について、伝えるように作りたい。

**【指導のポイント】<1・2時間目>**  
導入では、子ども達にとって身近な税金について考え、税金の必要性について実感できるような学習を行った。子ども達が思っていた以上に税金が使われているものが多く、新たな気づきや発見を大切にしながら学習を進めた。

**【指導のポイント】<3時間目>**  
動画を視聴する前に、これまで学習したことをもとに、「税金がなくなったら生活がどのように変わってしまうのか」をグループごとに話し合い、税金の必要性について実感できるような学習活動を組んだ。

**【指導のポイント】<4時間目>**  
山形税務署の方にお越しいただき、専門的な話を聞きながら、これまで学習してきたことを整理と発展的な学習を行った。新しい町の代表者になったつもりで、限られた金額をどのように使うのかをグループごとに話し合った。様々な視点から税金の使い道を考え、自分事として意見を話し合うことができた。

**【指導のポイント】<5時間目>**  
総務省行政相談委員の方にお越しいただき、集められた税金が具体的にどのようなことに使われているのかを知ることができた。子ども達は自分達の生活の中で困っていることや要望を伝え、その願いをもとに行政が動いてくれるということを知った。税金があることで、自分達の生活がより良くなるという実感を持ち、税についての知識を深めることができた。

**【指導のポイント】<6時間目>**  
これまでの学習の資料や活動をふりかえり、税金の大切さが伝わるような絵葉書を意識させた。学習を積み重ねていくと、子ども達の中で税金の必要性について理解できるようになっていき、それぞれの考えを文字とイラストで表すことができた。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 子ども達は税金についてマイナスなイメージをもっていたが、学習が進むと税金の必要性を実感し、興味・関心をもちながら学習を進めることができた。
- ◎ グループワークを多く取り入れ、子ども達の考えをつなぎながら学習を進めたことで、税金が自分達のくらしと密接にかかっているという実感をもつことができた。
- ◎ 税務署の方や行政相談委員の方にお越しいただけたことで、専門的な話を聞くことができた。子ども達が自分達の要望や願いを直接伝えることができたことで、社会の一員として生活をより良くしたいという意識をもつことができた。
- ◆ 子ども達の関心を高めることができたため、今回の単元に限らず政治や税金についての学習を進め、将来へとつながる力を育成していきたい。

# 聞いてみよう 税の話。

## 租税教室のご案内

学校で開催する租税教室の講師派遣、児童・生徒さんによる税務署見学、租税に関する資料（1億円レプリカ等）の貸出しなどのご要望は、最寄りの税務署の総務課までご連絡ください。

### 山形県内税務署

山形税務署	(023) 622-1611
米沢税務署	(0238) 22-6320
鶴岡税務署	(0235) 22-1401
酒田税務署	(0234) 33-1450
新庄税務署	(0233) 22-5111
寒河江税務署	(0237) 86-2244
村山税務署	(0237) 53-2151
長井税務署	(0238) 84-1810

### 租税教育関係ホームページ

国税庁HP  
「税の学習コーナー」



山形県HP  
「わたしたちの  
くらしと県税」



「租税教育実践レポート」



令和8年3月発行

発行者 山形県租税教育推進協議会

事務局：山形市大手町1-23（山形税務署内 税務広報広聴官）